

元・気・に・な・る・情・報・誌
よみっこ



1

Vol.253
JANUARY 2023

月刊

Yomi

NARA + YAMASHIRO + IGA

おみやげ・ごあいさつに!

ぜっぴん 手みやげスイーツ



今年は **ぴょ〜ん** と飛躍の年に 初詣ガイド 2023

跳ねる年に!
幸せがたくさん



グルメやショップ、
温泉クーポンで
得々!!

yomiっこ
クーポン付
39店

健康特集

尿のトラブルと悩み

2023円の旅

厄払いと開運を求めて多武峰ウォークの旅

自然と暮らす 全日本棍棒協会 / 東 祥平さん

BOZE数珠つなぎ 聖林寺 / 倉本大玄 師

新日本妖怪紀行 奈良と大阪、二人の影武者

伊賀もん ル・マルシエ / 宮浦照尚さん





「お正月を控え大注連縄の飾りつけ」

撮影場所/大神神社(桜井市)

📷 撮影者: 藤村 勝広さん

三輪さんの冬の風物詩「大注連縄の飾りつけ」。神職を先頭に約50人の信者によって拝殿前まで運ばれます。良き新年が迎えられるようにと架け替えられる光景に気が引き締められました。

目次フォト 大募集!

yomiっこ「巻頭ページ」にあなたの写真を掲載!!

奈良の風景や伝統行事、イベントなど、あなたのお気に入りの写真を毎月募集します。

3月を感じられる1枚を募集 締め切り:1月15日

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④写真のタイトル ⑤説明文 ⑥撮影地を明記の上、画像をメール (info@ynl.co.jp) に送付ください。

*応募作品の中から編集部での審査の上、掲載を決定します。
Instagram「#ならっこぐらし」でも応募できます。



位牌檀・納骨・送骨
永代供養墓
光明山
阿弥陀寺
0742-45-2410
〒631-0027 奈良市学園赤松町2826-1
みねのてら阿弥陀寺【総務】

LINEスタンプ発売中!
●ぽんわかスタンプ
●ビジネススタンプ

Yomi

2023.1月号 vol.253

本誌掲載内容は12月5日現在の情報です。

「新型コロナウイルス感染症」の影響で、店舗の営業時間やイベント等の開催が変更になる場合があります。詳細は直接ご確認ください。

04 ぜっぴん 手みやげ スイーツ

08 今年はびよ〜んと飛躍の年に
初詣ガイド2023

34 尿のトラブルと悩み

45 毎月使ってね!
yomiっこクーポン!

SHOP

14...SHOP☆SHOP

MAN

02...自然と暮らす 全日本棍棒協会/東 祥平さん

18...BOZE数珠つなぎ 聖林寺/倉本大玄 師

REGULARS 連載記事

16...美しいおもてなし

17...トドの毒舌

20...新日本妖怪紀行

22...タウンニュース

24...スポーツ大好き

「うた少年少女クラブ」 「高取オール寿」

26...読者のお便りFREE TALK&ちさとの星占い

28...クロスワードパズル&まめちしき

29...インフォメーション

「MUSEUM」 「ART」 「PLAY」 「EVENT」

33...生活向上委員会

38...2023円の旅 厄払いと開運を求めて多武峰ウォークの旅

40...伊賀もん ル・マルシエ/宮浦照尚 さん

42...プレゼント

43...かわいいな

44...こちら編集部



株式会社 読売奈良ライフ

<https://ynl.co.jp>



奈良の総合情報サイト
Narakko 毎月25日デジタル
パンフレット配信!

<https://narakko.jp>

表紙写真/大安寺、石上神宮、Lilionte、柿の専門(石井物産株式会社)

本誌に掲載している価格表示は、原則的に税込みです(特に明示あるものを除く)



通常は8回戦の合計得点を競う。プレイヤーには「名字+木の名前」の棍棒ネームが与えられる

昨年2月の「大棍棒展」の様子



↑「被打棒」
丈夫な榎の木で作られる。
50cmほどだが、1kgもある



↑昨年10月の
全国大会で
優勝の大宇陀
神殿仏s



全国大会集合写真

「棍棒」——手に持って、何かを打ったりするのにならぬほどよい長さの棒（『新明解国語辞典』より）。殴打用の武器として扱われることが多く、最も基本的な武器として原始時代から使用されているものだ。そんな棍棒を作り、新しいスポーツ競技にまでしてしまつた人物が、宇陀市で農林業に携わる東祥平さんだ。

東さんが奈良にやってきたのは2015年のこと。農林業に興味を持ち大阪から宇陀市大宇陀に移住した。

本格的に棍棒作りを始めたのは2021年から。作り始めた明確な理由はわからない。畑の杭を打つために棍棒らしきものは作っていたり、山林整備の仕事の中で薪か棍棒にしかならないサイズの木が手に入った。そのような理由も考えてみたが「棍棒の方からやってきた」が一番正しい表現だと東さんは話す。

棍棒にはカシを中心にクヌギ、ナラ、ウメなど硬い種類を使う。持ち手の部分をなたで削り、グラインダーなどを使っ

しながらチームの合計得点を争う競技。攻撃側は殴打用の棍棒「被打棒」を使つて、飛ばすための棍棒「被打破棒」を殴り飛ばし、被打破棒がコート内のどの得点範囲に静止したかで採点され、その合計得点を競う。守備側は「撃墜棒」で飛んできた被打棒を打ち返したり、キャッチしたりして攻撃を防ぐというルールだ。

「日本サッカー協会のHPにある競技規則を見た時に、すごく細かくルールが決められていて。これは作り込まないといけないなと思いました」。コートや棍棒、服装に至るまで細かい規則を定めた。

競技と同時に「全日本棍棒協会（ZNNKK）」を立ち上げた東さん。棍棒飛ばしの大会を開催すべく、チームを結成。チーム名は「大宇陀神殿仏s」。由来は、大宇陀の「陀」が仏陀の陀であることから仏s。そこにカッコよさをプラスするために「神殿」を付けたそう。東さんは「こん棒飛ばし大会のしおり」を作成し、競技の普及とチーム結成のサポートをするために全国各地を回った。

こうして昨年10月、初の全国大会が大宇陀健民グラウンドで開かれ、4チームと個人参加合わせて男女50人以上の競技者が参加した。大雨の降るなか、できるだけ遠くに飛ばそうと棍棒を振り下ろす殴打者に対して、撃墜者はできるだけ失点を阻止しようと泥だらけになりながら飛んできた被打棒を弾き返して応戦。記

AZUMA SHOHEI

1991年3月生まれ。31歳。2015年に大阪から宇陀市に移住し、農林業に携わる。2021年に本格的な棍棒作りを開始し、全日本棍棒協会を設立。会長に就任する。昨年2月に「大棍棒展」を開催。同10月には同協会が考案した競技「棍棒飛ばし」の全国大会を開いた。



大棍棒時代の幕開けだ！ ピエエエエエエエエエイ！！



棍棒を振り上げ、なるべく高い位置から全身を使って振り下ろす

自然と暮らそう

vol.176

全日本棍棒協会
会長 東祥平さん



大棍棒展

て滑らかな手触りに仕上げているのがこだわり。長さや重さも様々で一本一本に個性を感じる。

昨年2月には大阪市内で「大棍棒展」を開催。65種類の木で作った210本以上の棍棒が展示された。「展示販売をしたら、なぜか100本も売れました。令和の時代に棍棒なんて使わないはずなのに」と東さんは笑う。じわりじわりと棍棒が話題になる中で、ひょんなことから棍棒を使ったゲームが誕生する。

「やっぱり棍棒って殴る道具なので持つと殴りたくなるんですね。そうしたら誰かが『木片を叩いたら飛ぶんじゃないか』と言うので、そこら辺の木片を拾ってきて台に置いて叩いたら回転して飛んでいったんです。これが面白くなって距離を競うようになり、後に攻守を取り入れるなどルール化してチームスポーツになっていきました」。新スポーツ「棍棒飛ばし」の誕生だ。

棍棒飛ばしは2チーム間で攻守を交代念すべき第0回大会は東さん率いる大宇陀神殿仏sの優勝で幕を閉じた。

「棍棒飛ばしは山林整備の中で生まれたスポーツ。一般的に、里山保全」というと堅いイメージがありますが、わかりやすく楽しい、そして里山保全に繋がる競技が誕生して良かったと思います。キャンプなど自然の中で過ごすだけではなく、山の木をはじめとする現地の生き物たちとも触れ合うきっかけになれば」と東さん。「今後は全国大会から国内リーグ、そしてワールドカップまで広げていきたいですね。そのためにも山の木のケアをこれからも続けていきたいと思っています」。自然保護に一石を投じる棍棒。東さんたちの活動が広がり「大棍棒時代」が幕を開ける日も近い。

続きは電子書籍で見てね



Rakuten ブックス